
どうやら俺は転生できるらしい。

kakaze

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どうやら俺は転生できるらしい。

【Nコード】

N1890Z

【作者名】

kakaze

【あらすじ】

俺はいつもの通り過ごしていて、たまたま早く起きただけだったんだがな。いつの間にかに転生とかな…夢じゃないとありえんだが、現実だ。

初投稿で文法ごちゃごちゃです。あまり文才がないので嫌な人は来ないほうがいいです。それでもいい人は、生暖かい目で読んでいただければと思います。

いきなりの転生（前書き）

初投稿です。生暖かく見守ってもらえたら嬉しいです。
感想、アドバイスをもらえれば幸いです。

いきなりの転生

俺の名前は風霧進だ。かざきりすすむ 高校生だ。ただ、顔面が酷い。そのせいで学校でいじめを受けている。まあいつものことさ。バスで学校に通っている。現在もバス待ちだ。俺はいつもより少し早くに学校に行くこととしていた。いつもはもっと遅いが今日は早く起きてしまった。「今日も天気がいいなあ……」……バスがやっときた。何故か俺の体に……え？

……なんだここは。なんか密室っぽいが……ん？目の前によく見ると変な奴がいる。男っぽいが、何かが違うな。

???「変な奴とは失礼な……一応神だぞ？」

うわ……心読んできた……

神「当たり前だ神だもの。」

ふむ神とな……これは……転生フラグ……！

神「まあそうしてやるが……いい加減心で話すのやめろ。」

進「何故に？」

神「面倒だ」

進「……おk」

神「そっぴゃお前の名前聞いていないな。」

進「ああそっぴゃ俺の名前は風霧進だ。」

なんか厨二病っぽいとかね…いや何でもない

神「そうか…じゃあ進お前自分が死んでいるのは分かっているな？」

進「は？死んでたの？俺？夢じゃないの？」

こりゃたまげたな…

神「ハア…だから神って言うっても驚かないのか…」

進「まじか…今まで夢かと思ってふざけていたのに…」

神「まあ落ち着けその、なんだ、うん何か俺がね、人の姿でバス運転してたらさ、ハンドル操作間違えてね…正直すまんかった。」

進「…まああそこでの生活はあまり楽しくなかったからいいかな。」

いじめとかいじめとか…

神「悲しいな…とりあえず転生させてやる。」

上から目線かわらずか。なんだかなあ…

進「んでどこに？」

はつきり言って結構気になる。

神「ん」とだな…ここなんかどうだ？」

ペラペラ…

紙使うのか。もっとテレパシーみたいなかんじかと思ったのに。どれどれ…え〜と 多種族あり 魔物あり ギルドなどもあり。などなどe t c…

進「アバウトすぎないか？」

本当にe t cとしか書いてないんだよな…

神「調べんのがめんどうだったんだ」

とってもシンプル！過ぎる……

進「う〜んところで…チート能力ありか？神よ。」

ふふっオンライン小説でもよくあることだからなあ無いと困る…わけでもないがなあ…

進「ありだが…そうゆうものは普通こっちが言うんじゃないのか。」

あれ？なんかあきれてる？

進「別にいいだろどっちでも。」

神「チート能力は何にするんだ進。」

……そうだ。」

進「なんでも武器を出せるようにしてくれそ」「まて」「なんだ？」

神「能力は1つのみだ。」

チツ

進「じゃあなんでも武器をだせ……なんでも出せるようにしろ。」

神「なぜかえたし。」

進「まあいいから神のひろおおいお心で許して。」

神「そうかよ。」

進「あとさなんでも出せる能力さ、9歳まで使えなくしてくれ。」

神「…分かった。記憶を残して転生だよな。」

進「あ、あと転生した後9年間記憶封印してくれ。」

神「面倒だなあ……」

進「頼む」

神「分かったよ……」

ものわかりがいいね！

神「余計なお世話だ。」

なぜ読んだし

神「顔だ顔。」

なるほど

神「それじゃあ転生させるぞ進。来世でもがんばれよ。」

進「ああ。じゃあな。」

神「ふう…疲れた…」

神「あ、いいわ…あゝあ…送っちゃったよ…」

神の苦労は絶えない。

いきなりの転生（後書き）

あまりきつい感想などを書かれたら少しへこむかもしれません。

12月15日神が主人公が分かんと言われたので、つけました。

9年…と5日（前書き）

2話です。

あまりよく書けていませんね。がんばります…

9年…と5日

9年経った。いや、正確には9年と5日だ。ある程度このことが分かってきた。が、その前に今俺は大変な危機に遭遇している。…
…どうしてこうなったorz

- - - - - 5日前 - - - - -
- - - - -

なるほど。この町はジャロールと言い、自分はそれなりの家に住んでいるのか…

記憶が戻って良かった…あの神なんか適当だったからな…えと今は…午前10時か遅いなんてえ？あれ？文字読めないと思ったたら読めた…ああ9歳までの出来事や習ったことも憶えていたのか。理解理解。さて、自分はどんなスペックかね？

名前は、フィシー・オル・カン まあいいかなんか貴族っぽいとか貴族のようなもの。

…運動　すごく…できます…

…勉強　読み書き拔群。

…魔法　初級のライトすらできない…てか魔法あんのかよ…

これは　びみ　ようだ

魔法使いたかったorzしかもこの世界魔法の才で成績が決まるよ
うだ。なのでここではつまり貴族みたいなものの中でも落ちこぼれか
…旅に出るにはうってつけだな。早く行きてえ
うゝんまあがんばれ俺。
あとは人間関係か……

「うわっ」

つい口に出してしまった。どうやらこの体相当モテるようだ。なにせ
1日10回は告白されている。しかし、付き合った人はいないよう
だ。無口だったらしくそこを「カワイイ」などとすりよってくる
らしい。ふふっなかなかやるな…しかし振る！！みんな振る！！女
恐怖症の俺にそんなの押し付けられたらひとたまりも無い。振って
やるぜ！ みなぎってきたw

- - - - - 現在 - - - - -

「なんでよ！」

うるせえな。

「いい加減に諦める！」

現状を整理しよう今俺は、告白を断っている！！5日連続で…理由
はこう「どうしても付き合いたい」「運命の赤い糸よ！！」な
どなどその他頭の痛くなる言葉。夕方になり、「明日も来るよ」と
言う奴をうざったく思いながら返答をしている。こいつはユース・
ジャン・クドと言らしい。

貴族みたいなのだ。こんなのが同じ貴族みたいなものなのが嫌過ぎ
る。この世界大丈夫か？

「ねえ聞ってるの？」

「あ？」

どうやら現状整理の最中になんか言ってたみたいだ。

「今日はもう遅いから帰るけど、明日も来るからね!!」

ふう…今日も逃げ切ったか…危ないな…それにしても今日は早めに帰ったな…嫌な予感しかしねえ…

9年…と5日（後書き）

会話があまり無いので短いです。すいません。

主人公が能力を忘れてるのは、ある複線があると考えたり考えなかったり…

見てくださっている皆さんありがとうございます。

感想、アドバイスがあればどしどし受け付けます。よろしく願います。

夢の中で（前書き）

誤字、脱字がありましたら、報告してほしいです。

夢の中で

……あれ？俺あの後帰って母と父に少しばかり叱られて……そういえば何故叱られたのだ？まあいい。んで飯食って寝たはず……それなのにどうして高原にいるんだ？

「それはだ」 「うわっ」 驚くことでもないだろう……」

後ろに神がいた。少しばかり驚いた。

「扱いが酷いぞ進。いや、フィシー。」

どっちかにしてほしい。

「ところで名前がフィシーなのか？」

「知らなかったのか？」

何だその顔は。

「はあ……まずフィシーが名前。オルがえ」と……ミドルネームみたいなのだ。まあ実際にはお前の言うところの貴族の証みたいなのやっただ。カンはず。分かったか？」

「なるほど分からん。」

「言うだけ無駄だな。お前この夢から覚めたら引き出しにある古びた本に「起動」と言ってくれそんなかある程度のことだ詰まっているぞ。」

引き出しに入っている引き出しに入っている……よし憶えた。

「あとお前の能力少しリミッターをかけさせてもらったぞ。」

「まじか」

「そのことも本に入っているよく読めよ。」

メンドクサイなあ

「そろそろ帰る。お前現在たもててるドラ息子ってとこだぞ。しかももててるを捨ててるから本当にただのドラ息子だ。何とか体鍛えたりして魔法でも何でもできるようにしないとまずいぞ?」

「へーへー分かりましたよ。」

「じゃあな」

え? ちょ、ま……

「ふあああ」

あのやろつ相当なめんどくさがりやだな。さてと、引き出しを開けますかな。

おい…どうゆうことだ。本に向かって「起動」と言ってみたらアイ
○ッドなるものが出てきたぞ。デコレーションが酷いな。星とかい
っぱいついてやがる。とりあえず剥がすか。……

電源のつけ方俺知らなかった……orz

夢の中で（後書き）

なかなか思うように進みません。

説明……奴が来た！！（前書き）

ずいぶん長くなった気がします。

誤字があったりしましたら、報告よろしくお願いします。

説明……奴が来た！！

……「ヤフウウウウ！！電源はいったああ！！」

格闘すること数十分。ようやく入った。もう少しでぶっ壊すところだった。

「やっとつけたか馬鹿め。」

「アイなんちゃらのつけ方は知らん。」

てか神いつのまにいたんだ。

「アイなんちゃらって…お前言うのも嫌か」

「あとこれに説明入っているから勝手に読んで。」

「分かった。」

「それじゃあいつかまた会おう。」

「また会うことになんのかよ…」

「さよならだ。」

そう言って神は帰っていった。

あ、名前聞いてねえ。まあいいかw

「えゝ…あ、あつた。」

能力の使用制限について。

- 1、出せる物の1個の最大の重さは600？。
- 2、それ以外のこの世界の生態に悪影響を及ぼす物は出せない。
- 3、出した物は自身が伸ばそうと思わないと1日で消滅する。
- 4、生物は出せない。

最後に、能力を全開にしたい場合、神に許可をもらうことで全開にできるが、4と2は1時間で消滅する。

「ずいぶん規制かかってんな。」

「でも、このくらいじゃないとな。」

次は、世界について。

この世界の名はヴァルハード。厨二病かかってんなと思ったが無視。

ここでは、奴隷 農民 商人 下級貴族 中級貴族 上級貴族 王族
の順番で成り立っている。…らしい。なんせこの体箱入り息子（笑）
だからな。ここのことぐらいしか知らないし。学校にすら行ってないぜ。

名前は、父がファジー・オル・カン。
ファザーとか関係ないからな。

母がハミィ・オル・カン。

とっても優しい家族。

そついやそろそろ奴が来るころじゃ…

コンコン！「こんにちは」

くぁwせdrftgyh！！

き、来やがったぁぁぁぁ！！

嫌な予感がビンビンするうつつうつ！！

「はいはい」

開けるな母よ！！

「お邪魔します」

「何か無いかな何か無いかな」 ドラ○モンみたいな感じで喚いてる

「テッテレ〜じゃない！」

「透明マント！」

できた！てか本当に何でもアリだなこれ。

「あれ？いないの？なんだあ隙を見てゴニョゴニョ」

聞こえなかったが隙を作らないようにしなければ……

名案思いついた！親説得して少し修行と言つ名の家出をしよう。決まったら即行動。

実は自分の性能を確かめたいからだけど、奴は9歳のくせにしつこいからな。

あいつみたいにな……

説明……奴が来た！！（後書き）

感想やこうしたらいいなどのアドバイス等があればぜひお願いします。

12月13日 ミスがあったので修正。

15までお預けさ!! (前書き)

今日は少し調子にのって早めに投稿しました。

誤字脱字がありましたら、報告願います。

15までお預けさ！！

さて、突然だが報告することがある。俺は15歳まで旅に出られない！

つまりだ母親曰く「あなたは貴族なのよ！しかも9歳！ありえないわ！」と

父曰く「行ってもかまわんが、まだ早い。人攫いに攫われるかもしれないからな。」

だそうな。ザ・正論。それまで何してしようかね。

とりあえず散歩しよう。

「……………どうしてこうなった。」

何が起こったか、それはだな…

1、歩いていた。

2、いきなり奴が出てきた。

3、現在。

「？ 何のこと？」

「……………」

うぜえ……

こうなったら……

「え？どこ行つたの？ねえ？フィシー？」

俺の名を呼ぶな。ちなみに今は透明マントをつけている。見えないとかざまあww

「んもう！せつかく見つけたのに……」

スタスタ……

「行つたか。」

散歩は危険だ。てか何故あいつ領地に入ってきてやがるんだ？気を
つけなくては。

と言つわけで鍛錬しましよ。

「まず、どんくらい出せるかだな。」

ステ ス迷彩OK。

どこ もドア ダメ。

M4A1 ダメ。

ナイフOK。

……

何じゃこりゃ。

ああそうかどこで ドアは時空に負担が掛かり、M4A1は残弾がマガジンに入っている場合、環境破壊に繋がるからか……

少年改良中……

「できた！」

どこでも アは無理。まあ仕方ないね。後々考えよう。

M4A1は何と言うか、質量のある残像的な感じで撃って当たった
ら消える。しかし、質量はあるので貫いたりもできるらしい。神曰
く「お前想像した物も作れるぞ想像力次第だな。」アイなんちゃ
らに容れとけよ。あれか、面倒か死なせたくせに上から目線？でし
かも面倒臭がり屋か、畜生……
気を取り直してやっていこう。

訓練開始だ！！

ダダッダダダダカチャツカチャカチャガチャ…ダダダダダッダダ
ダ……………

これは予想外。本気出したら少しも銃口ずらさないように全速疾走
できるww

神、さっきごめん。ただこれ強すぎじゃね？

「大丈夫だ、問題ない。」

「ぼふうう」

「出てきやがった！」

「相変わらずひどい。」

「サーセンw」

「じゃがんばれよ。」

「何しに来たんだ？」

「様子見。」

「しっかり働けよ。」

「お前もな。」

帰っていったか……ふう。さて再開するか。

15までお預けさ!! (後書き)

次くらいには15歳までキングクリムゾンしたいなあ……

感想やアドバイスがあれば下さい。

15歳になって……（前書き）

やっと本編っぽいに入れます。地味に長かったw

誤字脱字がありましたら、報告お願いします。

15歳になって……

……さて、またいきなりだが15歳の誕生日を迎えた。のだが、何てことだろうか目の前には「ユザオズ」と言うまあ、なんと言うか、でつかいムカデみたいなのと対峙している。数？えゝ…約100体。すぐ終わらせるか。

M4A1を出してと…

「うおおおりやああああ」

乱射しまくる。弾数はずっとマガジンの中で作りっぱなしだ。6年やってきたからそこそ慣れている。弾はやっぱり出しっぱなしだと環境に悪いと思い、当たったとき以外は地面に着いたら消えるように想像している。俺の能力は想像力次第で強くも弱くもなれる。ミリオタ……とまではいなくてもそれなりに銃器には詳しいので想像しやすい。弾の想像も6年でなれたものだ。

「ふう…終わった。」

まあ声を出さなくてもできるが、なんかその方がいいと思う。

「さて帰るか。帰ったらもつと面倒なるかな？」

15歳。つまりそれは俺が旅立つ歳である。奴にも伝えたら「私も行く」と言いはじめたのでとりあえず15歳まで待つて、それから決めてくれと言っている。ん、話がずれたな。つまり15の誕生日は奴の決断の日。そして、両親がいろいろと用意していそうなけっこう大切な日である。

何故そんな日にでかいムカデと殺りあっていたかと言うとだな、はつきり言おう。散歩してて襲われた。それがムカデ×1。そこから仲間が来て100になった。それだけだ。まあ良い肩慣らしにはなったので良しとしよう。

そだ。あいつらに見つからないようにしないと。あいつらは数が多く、俺にとって何より対処しがたいからな…

なに言ってるか分かんと思う。少し説明する。

俺は歳をとるにつれてどんどんイケメソになっていった。自分が憎く感じた。ブサイクのほうがまだ活動しやすかったのに…でも現実とは違った。どんどん成長することに追っかけが増えてきた。この歳になるとありえないほど精密な魔法を放って確実に捕らえようとする女まででてきた。この前なんて刃物をもって真っ向から向かってきた。正直生きた心地がしなかった…

と言う訳でステルス迷彩を作る。能力も使えるようになってきたのでこつゆつのも作れるようになった。おk消えた。帰るぞ。

「ただいま」

なんと今日はあいつらがでてこなかったな。ラッキー…あ？

「「「おかえりなさいませ。」「」」

「は？え？なぜ君たちここいの？」

「「「今日は誕生会および出発会だと聞いたので。」「」」

「母よ。これはどうゆうことだ？」

「ええと…その…教えちゃった…」

「酷いや…」

Orz

「まあいいじゃないか賑やかなほうが。」
「そうかい。」

「さあレッツ・パアアアリイイイだあああ」

なぜそれを知っている。てか人格壊れたか？父よ。

そうして夜は更けていった……

そういえば奴^{ユース}来てなかったな。明日に来るよう言^{ユース}ったしな。奴は来るか？いや、最後になるかもしれんし行かないのなら、ユースと呼んでやろう。

まあ、一緒に行きたいといっても呼んでやるか。べ、別にツンデレじゃないんだからな！！なんてね。

実は女嫌いではないんだ。ただ嫌いなタイプがあるだけなんだが、それがほぼすべての女に当てはまる。まずは、金目当てで近づく女そして、地位目当ての女。俺は前世でも顔以外は少しばかりあったので、それなりに中学はモテた。俺も恋人を作った。前世での最初で最後の彼女だった。彼女はやはり金狙いだった。甘い言葉にさそわれて気が付いたらこずかいがパア。それならよかったが、高級なバッグなどをほしがった。それを断ると「じゃあ別れよう」だ。今になったらおかしいと気が付かないほうがおかしいと思える。ここまできたら分かるだろう。つまりユースが来たら、そいつの気持ちは本物だと言うことだ。そうなら俺はその気持ちを真っ向から受け止めようと思う。……ふふっ明日が楽しみだな。

そうしてフィシーは眠りについた。

15歳になって……（後書き）

なんかいい感じのような…何故このようにしたか、それはタグの恋愛が意味を成さないからです！！恋愛？は消させてもらいますよww
感想などあればお願いします。

あれ？これ、デジャヴ？（前書き）

すみません。入れたかった話なので入れさせてもらいました。

あれ？これ、デジャヴ？

「よう。久しぶりだな。」

いつぞやのー！

「いつぞやのー！じゃねえよwせっかく来てやったのに。」

「何か用事か？」

「ああ。少しばかりまずい。主に神としての立場が。」

「はあ？お前それ自業自得で自分で解決したから俺の件じゃないんじゃないのか？」

「そうなるそこなんだが、「ほかの神がその少年を助けた意味は？」とか聞いてきてな。「魔王送り込んでそれ倒せたらその罪はなかったことにしてやる。」だと。」

「つまりほかの神が送った魔王なるものを倒せと。」

「そうだ。どうか頼めないだろうか？」

「そう言われてもな…魔王だろ？」

「そうだ。こちらもやばいのでそれなりの協力はしようと思う。なにせあつち是最強クラスの魔王だからな。」

「鬼畜だなあ。」

「ずいぶん冷静だな？」

「今のままじゃ勝てないんだろ？」

「…ああ。いくらなんでも出せても体が追いつかないからな。」

「なら身体能力の底上げをしてくれ。」

「…それだけなのか？」

「ああ。」

「ふふっ良かった。もつと多くの事を突きつけてくると思ったぞ。まあ今の体じゃ無理だな。」

「どうゆうことだ？」

「お前の転生のためと能力。そして魔王が出てきたことでの世界への影響を抑えるために力を使ったからな。悪いが少し眠る必要がある。能力をやったらしばらく会えん。すまない。」

「気にするな。それで十分だ。ゆっくり休め。」

「実はいい奴だなお前。じゃあ言葉に甘えて……」

意識が消えていく中、そんな言葉が聞こえた気がした……

朝起きたら

「世界を救わなきゃいけないのかねえ」

なんてつぶやいてしまったのは仕方ないと思う。

あれ？これ、デジャヴ？（後書き）

神は眠りについたので。

すいませんただの我俣でした。

感想などあればお願いします。

旅立ち（前書き）

一回書いたのぜんぶ消えたorz

旅立ち

……準備完了。といってもほとんど何も無いけど。

コンコン

！

「こっちは終わったよー！」

「分かった。今行く。」

「それじゃ、行ってくるよ。」

「行ってらっしゃい。必ず帰ってきなさいよ。」

「おお!!行つてこい!」

ガチャ

ボタン

「よし!いくかユース!」

「え?今なんて……」

「いや、だからいくかユースって……」

「ひ、久しぶりにユースって言われた!ユースって!」

「そんなに嬉しいか?」

「だって今までお前とかだったから!」

「そうかい。」

こうゆうのも悪くはない。ユースが好意を寄せているなら、それを受け止めてやろうじゃないか。本気ならね。

「……//」

「ん?どうした?」

「本…当?」

「何が?その好意とか…」

「聞いていたのかてか口に出てたのか。」

「うん……」

「嘘言っても意味ないじゃないか。」

「やった……」

小さい声で聞こえなかったが、まあのは分かるだろう。

「ほら惚けてないでいくぞ！」

「あ、うん」

どうしてこうなった。

歩いて数分。盗賊さんがいた。

「おいお前。金と女置いていけ。」

……あまりにテンプレすぎて笑えない。

「うん。それ、無理。」

とりあえずナイフだ。ユースに見えないように殺る。

ザヒュ……

ブシャアアアアア！

嘘！首落ちたぞ！！そんなに俺のナイフの切れ味が良いわけがない！

ん？そっぴやこの体勢……抱きついてね？

「はふ」

「ユース？大丈夫か？」

「よくもやってくれたなあ」

あ、上のやつ俺じゃなく盗賊B。

どうやらどこから嗅ぎつけてきたらしい。

「野郎共！やれえ！！」

ワーワー！！

数30。何だナイフでおkジャン。

シュッ！ザッ！ザヒュ！ジャヒュ！……………

大変上手に殺りました

「うわゝグロいな」

みんな首と体が離れてる。これはグロイ。

一回場所を移すか。

「…う、うゝん」

「お、起きたか。」

「あ、フィシー」

「何故気絶したんだ？」

ユースの顔が赤くなっていく。なにがあったし。

「だってフィシーがいきなり抱きつくから……」

「それはすまんかった。」

「いやいいよ。……もつとしてくれてもブツブツ」

「おゝい帰ってこい！」

「はーっ、ごめん。」

「そろそろ行こう。場所は決まってるけど。」

「うん！」

旅立ち（後書き）

1 回消えたときは頭が真っ白になりました。

2 連投するものじゃないなと思いました。懲りなくやりそうですが。

もうこいつら結構仲いいな……もう結婚しろよ。

末永く幸せに爆発しろ！

感想などがあればください。

次の町は…（前書き）

アクセス5000を超えたWWWうえっうえWWW

ありがとうございますー！

次の町は…

「よくも俺の子分をやってくれたなあ…」

説明しよう！親玉が首チョンパの子分見つけ。しばらくして俺たち発見。キレル。以上。

「なんかしたつけ？ねえフィシーなんかしたの？」

「ちよつと奴の子分がやってきたんでボコボコに。」

「ふん。」

少しは驚けw

「なにぶつぶつ言ってやがる！野郎共かかれい！」

今気がついた。こいつおそらく副親分みたいな奴だったのか。親分死体があつたから自分になつたてな感じだろうな。理由？やれえだと殺せみたいな感じするけど、あいつかかれえだったし声裏返ってたから。

「あぶな！」

いきなり剣振つてくるとかありえねえ。どこの不良…て不良か。とりあえずナイフで応戦…するとも思ってたか？あ、でもユース見てるしなあ。応戦しておこつ。

ガキイン！

「小僧シネエ!!」

「だがこも」ドガアン!!

「なんぞ!?!」

そこにはすごく黒いオーラを出しながら魔法詠唱しているユースがいた。こええ…

「なにやっているのかな?怒るよ?」

怒ってるじゃん!一発の威力が高いよ!?

「ひ、怯むなあ!かからええ!!」

声裏返ってしかも、噛むっておもしろい。

「」「」「へ、へい!」「」「」

「ユース。」

「よくも私の…」

「ユース?ユーーーース!!」

「ハッ!な、何?」

「血とか肉とか見なくなったら目ふさいで!」

「え？う、うん。」

「よし！！ナアアイフ！アンドオオ、ナアアイフ！！」

ナイフだけじゃんかと思うだろ？片方だけ血みどろの「あの」ナイフなんだよ。盗賊を殺した、ね。

「いきがってんじゃねエエ！」

「お前がなあ！！」

スパーン！

……スパーン、スパーン、スパーン

あり？もしかして斬ると言う感情が強すぎて想像に影響したのか？ほとんどの首とんでったぞ。

まあ新しく能力の事を知れたとゆうことで。

「ひ、ひえっ……」

「た、退却！！」

逃げていく。逃がさんよ？また来るんだろ？逃がしたら。投げナイフだな。

シュ！シュ！シュ！……ザザザシュ！

おおお！さすが身体能力底上げ！投げたいところつまり心の臓に的確にあたる！

あ、ユース忘れてた。

「気持ち悪くても良いなら目あけてもいいぞ。」

「！うん。……うつ」

「大丈夫か？吐きたいならついて来い！血の臭いが来ないところまで行くぞ！」

「わ、分かったよ……うつ……」

「よし、いくぞ！」

「すっきりしたか？」

「ふう……ありがとう……でもまだ気持ち悪いよ。」

「分かった。しばらくしたら行こつ。」

「そろそろいけるか？」

「うん。」

「よし、行くう。」

「どこ行くの？」

「あ。」

「まさか……」

「そのまさかさー!!」

「それはまずいよぉ……何か地図ない？」

「ちょっと待ってる。」

地図地図つと。確か……分かん。
詰んだか？やべえ！

「無いんだね？」

「はい…その通りでございます。」

「はあ…やっぱり。じゃあここから近い町に行こう？」

「どこ？」

「レバース。」

「うわ…悪徳商人が居るところかよ…」

「大丈夫だよ。あとギルド行くんでしょ？じゃあ尚更レバースだよ。」

「仕方ない。レバースに行くか…」

「うん！」

何事もなければいいのだが……

次の町は…（後書き）

ユースは魔法を使えます。主人公は少しかりが狂って…いないんですが、基本的には近距離と中距離において、格下だと思った奴に対してはナイフしか使いません。まあ、ナイフのほうが想像しやすいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1890z/>

どうやら俺は転生できるらしい。

2011年12月17日19時51分発行